

検証 検証2005年の自然災害

Assessment of Disaster Damage in 2005

地震災害

地震空白地帯で300年ぶりの大地震
頻発地帯でも大地震で被害発生



被災した玄界島の家屋（福岡県）〔写真提供／毎日新聞社〕

2005年は地震が多発した年だった。中でも、特に大きな被害が出たのは3月20日に発生した福岡県西方沖地震である。地震の空白地域といわれ、地震による被災が小さいと考えられていた九州北部にマグニチュード(M)7.0クラスの地震が発生したのである。この地域のM7.0クラスの地震は、1700年に沓岐・対馬で発生して以来約300年ぶり、1884年の観測開始以降では初めてである。福岡県玄界島では、家屋が倒壊するなどの被害が出て、全島民が避難。小泉純一郎首相も視察に訪れた。

地震空白地帯だけでなく、頻発地帯でも大きな被害が出た。7月23日に起きた千葉県北西部を震源とした地震では、首都圏の交通網がマヒしたほか、相当数のエレベーターが停電もしくは地震時管制運転装置の始動により停止。閉じ込められたり、エレベーターの復旧が翌日までかかったりするなどの被害が発生した。また、地震頻発地帯の1つである宮城県沖で8月16日に発生した地震では、帰省客の足が乱れたほか、室内プールの屋根が崩れ落ち多数の負傷者が出るなどの被害が発生した。



地震により窓ガラスが割れた建物（福岡市中央区天神）〔写真提供／時事通信社〕